

# 北海道苫小牧国際リゾート構想・IR誘致に向けた 取組状況について

令和2年11月  
苫小牧市

# 北海道苫小牧国際リゾート構想・I R 誘致に向けた取組状況について

## 北海道知事誘致表明 〈令和元年11月〉

基本方針（案）公表

**区域整備計画の認定申請期間  
（令和3年1月4日～令和3年7月30日）**

- 北海道のIRは大きな可能性が期待されることから、誘致に挑戦する
- 区域認定までの限られた期間**で環境への適切な配慮を行うことは不可能であるため、今回の申請〔R3.1.4～R3.7.30〕は見送る
- あらゆる可能性を視野に入れ、北海道らしいIRのコンセプトの構築、**現候補地（苫小牧市植苗）を基本とした候補地の特定など、国の動向を見極めながら、必要な取組を計画的に進めていく**

## 基本方針（修正案）公表 〈令和2年10月〉

- IR区域、施設に係る安全や健康・衛生の確保を追加
- 都道府県等によるギャンブル等依存症対策と、関係地方公共団体との連携協力の充実を追加
- 収賄等の不正行為防止と、国や都道府県等におけるI R事業者との厳格な接触ルールの策定、及びI R事業者におけるコンプライアンスの確保を追加
- 区域整備計画の認定申請期間を9か月延期  
（令和3年10月1日～令和4年4月28日）**
- ◆パブリックコメント期間  
令和2年10月9日～11月7日
- ◆国(観光庁)への意見提出(北海道、苫小牧市)
  - 自治体における十分な検討期間の確保が必要
  - I R事業者との厳格な接触ルールについては公平性及び透明性の確保を徹底するためにも重要
- ◆基本方針決定時期 未定

## 北海道との連携体制

苫小牧市は、北海道IRの誘致に向けて、北海道と連携を強化しながら取組を進めている。

市は、道との情報共有のもと、候補地の特定に向けた検討を行い、道は、市と情報共有のもと、IRコンセプト等の検討に当たる。

〈所 管〉

道：北海道経済部観光局

市：苫小牧市総合政策部国際リゾート戦略室

※所管部署を通じ、庁内関係部署と連携

## 候補地特定に向けた検討

国際リゾート構想においては、日本型IRに求められる条件やコンセプト、事業者の意向、交通アクセス等から植苗地区を候補地として位置付けた

### 北海道との連携の中でさらなる検討

- ①自然環境対策
- ②開発手続の整理
- ③インフラ整備の考え方
- ④他地区との比較

上記において検討し、**本市としてIR候補地の考え方をまとめ、現候補地である植苗地区を候補地として特定**した

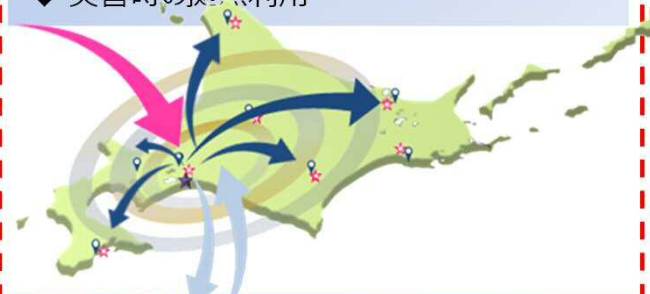
## I R 誘致の必要性

### なぜ今、IRなのか

- 人口減少の急速な進行
- 少子高齢化と人材不足
- 民間企業の厳しい経済状況、生産・消費の減少
- 地方財政のひっ迫した状況

✦ **～ポストコロナを見据えて～**

- ◆ 海外からの観光需要獲得に向けた新方策
- ◆ 大規模MICEなどによる新規顧客の獲得
- ◆ 道内空港路線の充実・強化
- ◆ 地方路線・鉄道の維持
- ◆ 災害時の拠点利用

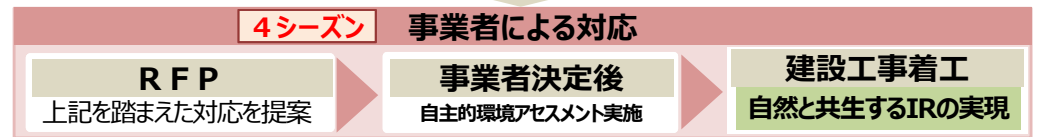
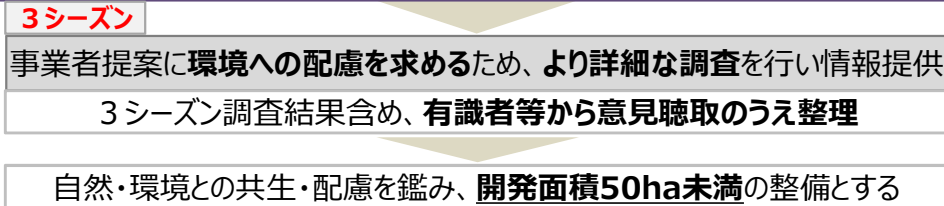
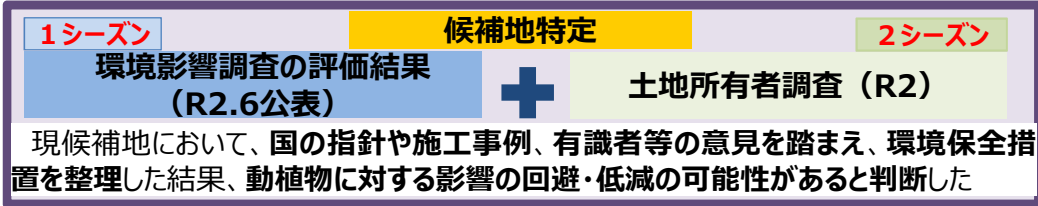


### 立地の特性

- ～魅力的な国際リゾートエリアの形成～
  - ・ 自然・環境の「保全」と「活用」
  - ・ 都市型と一線を画す新しいリゾート
  - ・ 文化・風土を感じるロケーション
- ～北海道のゲートウェイ 空・陸・海ネットワークの充実～
  - ◆ 空路  
国内外を結ぶ空路、直行便  
新千歳空港と道内5空港を結ぶネットワーク
  - ◆ 陸路  
JR路線利用促進～新千歳空港スルー化  
北海道新幹線（札幌延伸）との連携  
空港から10分以内のアクセス交通整備
  - ◆ 海路  
豪華客船
  - ◆ 物流  
空港と港のダブルポート機能連携強化  
食と物流産業基地の形成

## 自然環境対策への対応の考え方

- これまでの調査及び環境保全措置の整理により、現候補地における開発に当たっては、**動植物に対する影響の回避・低減の可能性**があると判断したことから、**IR事業地として特定**し、環境影響調査評価の結果(令和3年1～8月の調査を含む。)を踏まえ、開発条件や環境配慮事項等を事業者に対し示す実施方針～RFPへ反映
- ⇒ **開発を行う中においても、周辺地域を含め自然環境の保全、質の維持・向上を図り、環境と共生した国際リゾートの実現に向け取組を進めていく**



## IR候補地の開発手続

- ◆都市計画法について
  - 現候補地は市街化調整区域のため、千歳・苫小牧地方拠点都市地域基本計画において、拠点地区として指定(構成市町には、計画変更の了承済)
- ◆森林法について
  - 現候補地で1haを超える開発行為を行う場合は、残置森林等を確保した上で、事業者が北海道に対し、開発許可申請

## IR候補地に対する考え方

- IRを整備する上では、国内外からの交通アクセスの利便性などの経済的・社会的条件は極めて重要であり、現候補地である植苗地区は、自然との共生という可能性を有しているだけでなく、国際空港である新千歳空港に隣接していることが大きな強み
- 日本型IRは、日本の魅力を世界に発信し、国内外から多くの観光客を惹きつけることが求められており、世界でも類を見ない魅力あるリゾートとしなければならず、北海道らしいIRは、大都市型とは一線を画す自然と共生した魅力あるリゾートでなければならない
- ⇒ **本市として、現候補地である植苗地区を北海道IRの候補地として特定する**

## IR候補地のインフラ整備の考え方

- ◆道路整備について
  - 新千歳空港からのアクセスは、事業者によるBRT等の輸送システムの構築、整備により、短時間の大量輸送を実現
  - IRダイレクトIC設置を事業者に求め、道内等とのアクセスを強化
- ◆上下水道整備について
  - ウトナイ湖等、自然環境への影響を最大限に考慮し、地下水は使わず、公共上下水道を整備・連結

### 道路整備について

整備区間	実施主体	延長(km)	概算事業費(億円)
新千歳空港接続道路	苫小牧市・事業者	4.6	63
市街地接続道路	苫小牧市	8.7	37
合計		13.3	100
スマートIC	事業者		(25)

### 上下水道整備について

項目	実施主体	延長(km)	概算事業費(億円)
上水道整備	苫小牧市	8.7	24
下水道整備	苫小牧市	13.5	54
合計		22.2	78

※**インフラ整備の実施主体は市で、財源は、交付金、起債、事業者負担等、今後協議。**

## 現候補地(植苗地区)と他地区(苫東)比較

- 現候補地は、空港アクセスが最も優れ、森に囲まれたリゾート環境が可能
- 植苗別地区は、空港アクセスが現候補地より遠く、千歳市住宅地に近接
- 苫東地区は、企業立地施策へ大きな影響があるほか、空港アクセス、インフラ整備も課題

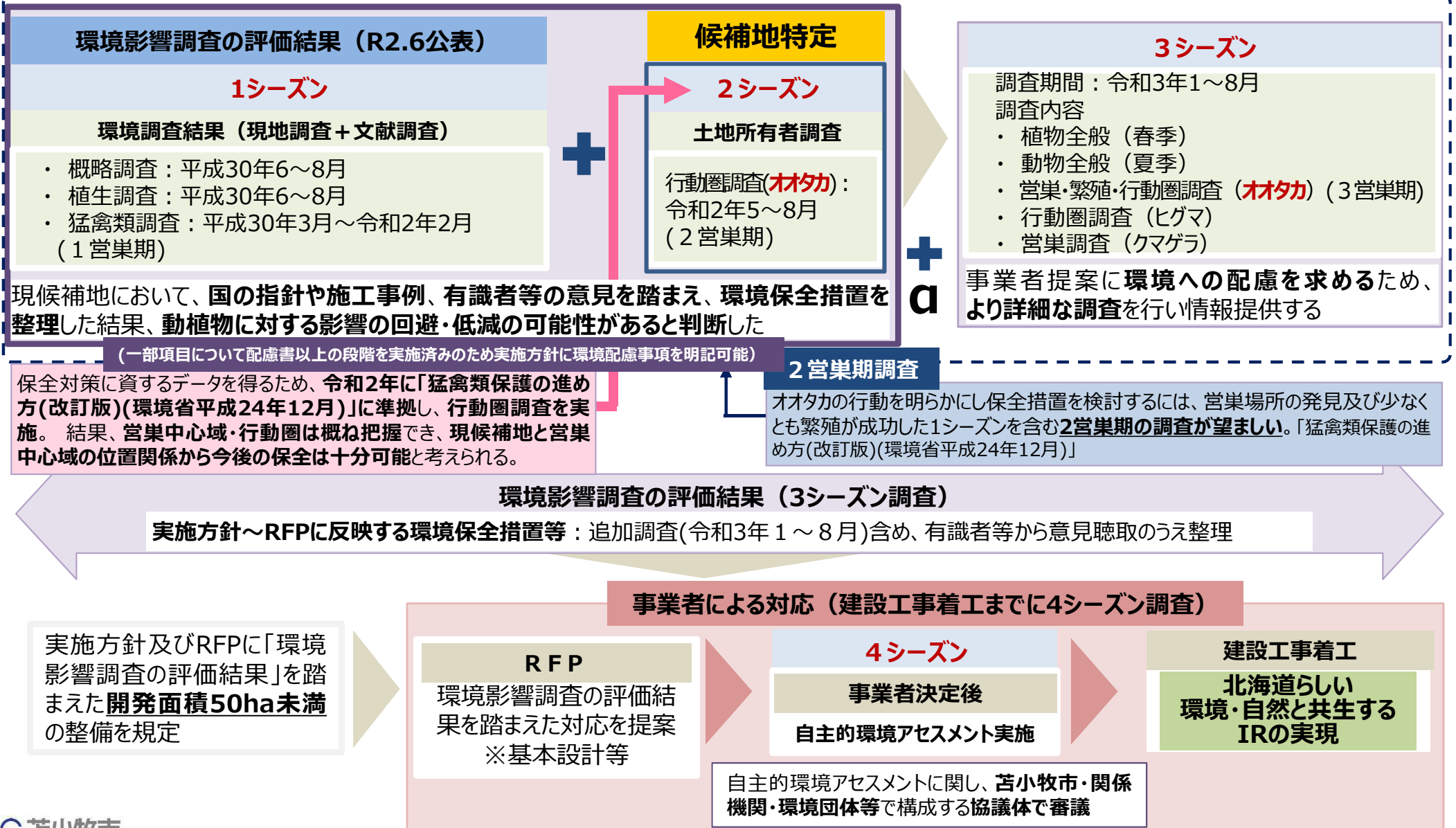
**北海道苫小牧国際リゾート構想・IR誘致に向けた  
取組状況について  
〈資料編〉**

令和2年11月  
苫小牧市

# 自然環境対策への対応の考え方

- ・ 苫小牧市は、令和2年6月に環境影響調査の評価結果として公表するとともに、候補地の地権者から委託を受けた調査会社が、追加調査として希少猛禽類（オオタカ）の行動圏調査を実施。
- ・ 11月時点でこれまでの現況調査及び環境保全措置の整理により、現候補地における開発に当たっては、**動植物に対する影響の回避・低減の可能性**があると判断したことから、**IR事業地として特定**し、環境影響調査評価の結果(令和3年1～8月の調査を含む。)を踏まえ、開発条件や環境配慮事項等を事業者に対し示す実施方針～RFPへ反映させる。

⇒**開発を行う中においても、周辺地域を含め自然環境の保全、質の維持・向上を図り、環境と共生した国際リゾートの実現に向け取組を進めていく。**





# IR候補地（開発エリア）

周辺エリアの概況は、地形は低地であり、2級河川である美々川や中流部にウトナイ湖が位置する勇払川、それらの支川であるパンケナイ川、パンケナイ川、ポンオタルマップ川、トキサタマップ川などの多くの河川が流れ、落葉広葉樹二次林であるシラカンバーミズナラ群落や、植林地であるエゾマツ植林、アカエゾマツ植林、カラムツ植林、牧草地・ゴルフ場・芝地等が分布している。



**生物多様性オフセット、ミティゲーション、ノー・ネット・ロス原則の考え方を適用し、開発地域周辺の自然環境の質の維持・向上を図り、良好な自然環境を保全・再生するエリア**

カラムツは全体的に20mおきの列状間伐が行われており、蓄積の高い森林。今後計画的に伐採予定。落葉広葉樹は整備が行き届いておらず、広葉樹林としては未成熟、カラムツ林は猛禽類が住みやすい環境ではあるが、遷移進みはじめ、生息環境が変化している。

落葉広葉樹の二次林（薪炭林）、整備が行き届いておらず、広葉樹林としては未成熟、猛禽類は営巣しない。

カラムツは全体的に20mおきの列状間伐が行われており、蓄積の高い森林。今後計画的に伐採予定。落葉広葉樹は整備が行き届いておらず、広葉樹林としては未成熟、カラムツ林は猛禽類が住みやすい環境ではあるが、遷移進みはじめ、生息環境が変化している。

開発エリア100ha  
(事業実施エリア50ha未満)

**森林法上の開発行為をしようとする事業区域面積のうち、現在確認されている重要種、希少猛禽類の営巣木、営巣中心域を避けた開発エリア100haのうち、50ha未満の事業実施エリアは十分に確保できる可能性がある**と判断





# IR候補地の開発手続

## ◆都市計画法について

- ・ 現候補地は市街化調整区域のため、千歳・苫小牧地方拠点都市地域基本計画において、拠点地区として指定する。
- ・ 千歳・苫小牧地方拠点都市地域の構成市町には、基本計画の変更について既に協議し、了承をいただいております。今後、協議会において正式に決定し、北海道からの同意を求める。
- ・ 事業者が苫小牧市に対し、都市計画法開発許可申請を行う。

## ◆森林法について

- ・ 現候補地で1haを超える開発行為を行う場合は、残置森林等を確保した上で、事業者が北海道に対し、開発許可申請を行う。

# IR候補地のインフラ整備の考え方

## ◆道路整備について

- ・ 新千歳空港からのアクセスは、事業者によるBRT等の輸送システムの構築、整備により、短時間の大量輸送を実現する。
- ・ IRダイレクトIC設置を事業者に求め、道内等とのアクセスを強化する。

## ◆上下水道整備について

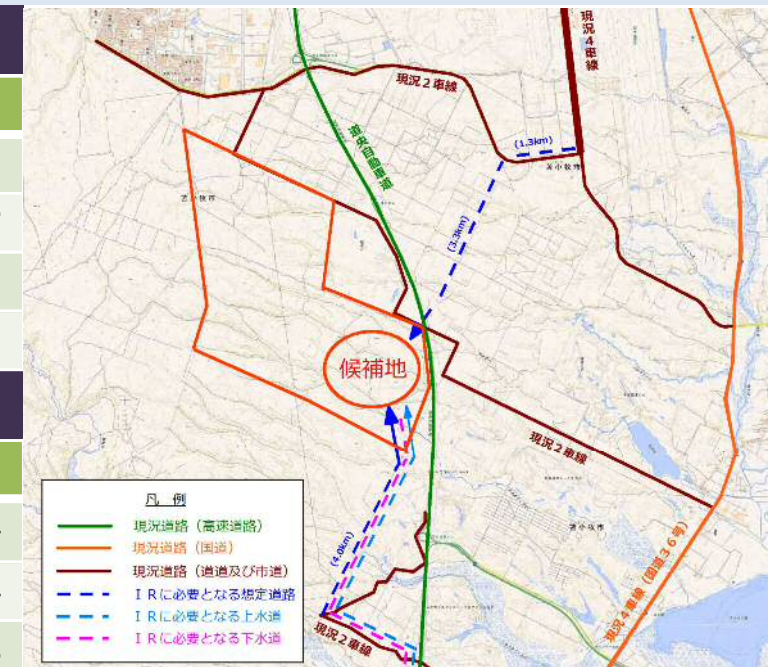
- ・ ウトナイ湖等、自然環境への影響を最大限に考慮し、地下水は使わず、公共上水道及び公共下水道を整備・連結する。

### 道路整備について

整備区間	実施主体	延長 (km)	概算事業費 (億円)
新千歳空港接続道路	苫小牧市・事業者	4.6	63
市街地接続道路	苫小牧市	8.7	37
合計		13.3	100
スマートIC	事業者		(25)

### 上下水道整備について

項目	実施主体	延長 (km)	概算事業費 (億円)
上水道整備	苫小牧市	8.7	24
下水道整備	苫小牧市	13.5	54
合計		22.2	78

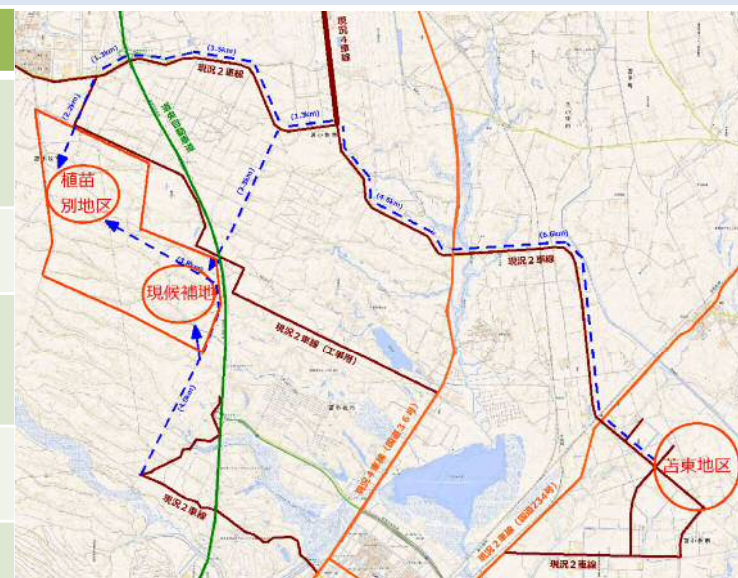


**※インフラ整備の実施主体は市で、財源は、交付金、起債、事業者負担等、今後協議。**

## 現候補地（植苗地区）と他地区（苫東）比較ポイント

- ・ 現候補地を含め、植苗2地区、苫東地区で比較し、用途地域、自然環境、空港アクセス、インフラ整備を比較ポイントとした。
- ・ 現候補地は、空港アクセスが最も優れ、森に囲まれたリゾート環境とすることが可能である。
- ・ 植苗別地区は、空港アクセスが現候補地より遠く、千歳市住宅地に近接している。
- ・ 苫東地区は、工業専用地域の広大な面積の用途変更が必要であり、企業立地施策への大きな影響がある。また、空港までが遠く、インフラ整備も負担が大きい。

区分	現候補地	植苗別地区	苫東地区
用途、 開発手続	市街化調整区域⇒拠点地区として指定		工業専用地域 ⇒商業系に用途変更 ※苫東計画に重大な影響
	木材等生産林⇒森林法に基づく開発許可		
自然環境 重要な種	二次林、植林、一部に自然度9の植生 オオタカの営巣繁殖⇒適切な保全措置		二次林、植林 周辺は生物多様性 重要地域
周辺環境	森林、道央道、ゴルフ場 5km下流にウトナイ湖	森林、ゴルフ場 千歳市住宅地に近接	工場、未造成地の森林、 石油備蓄基地
空港 アクセス	空港から10分以内、直結 スマートIC、BRT輸送	空港から約15分 BRT輸送	空港から約20分 ※輸送力確保が課題
道路整備	空港接続：約63億円 市街地接続：約37億円	空港接続：約71億円 市街地接続：約57億円	空港接続：約77億円
上下水道 整備	上水道：約24億円 下水道：約54億円	上水道：約30億円 下水道：約60億円	上水道：約33億円 下水道：約92億円



## IR候補地に対する考え方

IRを整備する上では、国内外からの交通アクセスの利便性などの経済的・社会的条件は極めて重要であり、現候補地である植苗地区は、自然との共生という可能性を有しているだけでなく、国際空港である新千歳空港に隣接していることが大きな強みである。

また、日本型IRは、日本の魅力を世界に発信し、国内外から多くの観光客を惹きつけることが求められており、世界でも類を見ない魅力あるリゾートとしなければならない。北海道らしいIRは、大都市型とは一線を画す自然と共生した魅力あるリゾートでなければならない。

以上のことから、**苫小牧市としては、現候補地である植苗地区を北海道IRの候補地として特定する。**